

平成27年度 青少年のインターネット・リテラシー指標等

平成27年11月

総務省総合通信基盤局消費者行政課

平成27年度調査結果の概要

【平成27年度テスト結果概要】

- 全体の正答率は69.7%。2. 不適正利用（インターネット上で適切にコミュニケーションができる能力）の正答率が高く（72.6%）、特に不適切利用リスク（2c）の正答率が高い。一方、不適正取引リスク（2b）やプライバシーリスク（3a）、セキュリティリスク（3b）の正答率は低い。
- 前年度参加校を対象とし、問題改修を行っていない問（40問）のみで経年比較すると、本年度正答率は71.0%と昨年度正答率（70.5%）を上回り、有害情報リスク（1b）については2ポイント以上向上している。もっとも、不適切利用リスク（2c）は昨年と比べて正答率が低くなっている。

【青少年のスマートフォンの使用実態】

- 青少年のスマートフォン保有率は年々増加しており、今年度においては全体の91.5%に達している。また85.5%の青少年が主にスマートフォンでインターネットを利用している。
- 1日当たりのインターネットの平均利用時間は、スマートフォンの場合、平日は1～2時間、休日は2～3時間の利用が最も多い。これはパソコン等他の機器の利用時間よりも長い。
- スマートフォンの利用時間が長くなるにつれ、就寝時間が遅くなり、また利用時間のうちSNSが占める割合が増える傾向がある。

【青少年のインターネット・リテラシー調査結果と分析】

- フィルタリングの意義について理解している青少年や、フィルタリングを利用している青少年のリテラシーが高いため、フィルタリングの必要性、意義等を青少年自らが考える機会を設けることが重要。
- インターネットを使い始めた時に、その使い方を「保護者」に教わった青少年や、スマートフォンやSNS利用に関する家庭のルールがある青少年のリテラシーが比較的高い。このことから、インターネットの使用やネット上のリスクに対する認識、家庭での話し合い・ルールづくりの促進が重要。
- 家庭でのルールがあり、フィルタリングを利用している青少年のリテラシーは更に高くなることから、フィルタリングに対する保護者の意識向上も重要。

1-1. 青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標

- ILAS (Internet Literacy Assessment indicator for Students) -

- スマートフォンが急速に普及し、インターネットがますます青少年にとって身近になる中、青少年がインターネットを安全に安心して活用するためには、インターネット・リテラシーの向上が急務。
- 総務省では、利用者視点を踏まえたICTサービスに係る諸問題に関する研究会（青少年インターネットWG）の提言（平成23年10月）を受け、リテラシー向上のための前提として、特にインターネット上の危険・脅威に対応するための能力とその現状を可視化するため、これらの能力を数値化するテストを開発。
- 協力を得られた学校等において、平成27年6月から7月にかけてテストを行い、その結果を「青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標（ILAS:アイラス）」として集計・分析・比較した。
- ILASは、地域での周知啓発活動や、事業者による安心・安全サービスの提供・改善に役立てるとともに、OECD等における国際的な指標づくりに我が国からインプットしていく。

■「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」（平成21年4月1日施行）

【基本理念】

- ① 青少年の適切なインターネット活用能力の習得（インターネット利用に係るリテラシー向上）、② 青少年の有害情報の閲覧機会の最少化（フィルタリングの機能向上・普及、関係事業者による取組）、③ 民間による自主的・主体的取組、国等によるこれの尊重・支援

■利用者視点を踏まえたICTサービスに係る諸問題に関する研究会（青少年インターネットWG）提言・概要（平成23年10月）

各関係者に求められる役割等（中略）

行政には、（特にインターネット上の危険への対処に係る）インターネットリテラシーに関する指標を、国際的に比較可能な形で整備し、定期的に公表していくことが求められる。

■青少年のインターネット・リテラシー指標に関する有識者検討会（座長：赤堀侃司白鷗大学教授）（平成23年9月～24年3月）

教育工学や法学等に知見を有する有識者の方々からのご知見を踏まえ、特にインターネット上のリスク分類と、これに対応した危険・脅威への対応能力の整理、この能力を明らかにするテストの開発・分析・整理を実施。

（顧問）堀部政男（一橋大学名誉教授）、渡部洋（東京大学名誉教授）（座長）赤堀侃司（白鷗大学教育学部長・教授）、（座長代理）新井健一（ベネッセ教育研究開発センター長）

■利用者視点を踏まえたICTサービスに係る諸問題に関する研究会（スマートフォン時代における安心・安全な利用環境の在り方に関するWG）提言（平成25年9月）

第三部第3章2 地域の自主的なリテラシー向上活動の展開（中略）

- (1) インターネット・リテラシー指標（ILAS）の更なる展開、(2) 地域における自立的な周知啓発活動の展開、(3) リテラシー向上に関する国際的な調和の推進

2. ILASの実施概要等

○ 青少年に必要なリスク対応能力の分類

OECDのインターネット上の青少年保護に関するレポートにおけるリスク分類をベースに、インターネット上の危険・脅威への対応に必要な能力(リスク対応能力)に関し、前記有識者検討会において以下の項目に整理。

【青少年に必要なリスク対応能力】

1. インターネット上の違法コンテンツ、有害コンテンツに適切に対処できる能力
 - a. 違法コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる。
 - b. 有害コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる。
2. インターネット上で適切にコミュニケーションできる能力
 - a. 情報を読み取り、適切にコミュニケーションできる。
 - b. 電子商取引の問題を理解し、適切に対処できる。
 - c. 利用料金や時間の浪費に配慮して利用できる。
3. プライバシー保護や適切なセキュリティ対策ができる能力
 - a. プライバシー保護を図り利用できる。
 - b. 適切なセキュリティ対策を講じて利用できる。

携帯電話やスマートフォンがおおむね青少年にいきわたる高校1年生までに身に付けて欲しいリスク回避能力を体系的に定義。

○ 平成27年度の変更事項

①ILASの一部間を入替・変更(49間中9間) ②対象者を大幅に増加(16都道府県22校から38都道府県75校)

①の問題改修については、平成26年度に改修プロジェクトを実施し、青少年のインターネット利用を取り巻く環境やリスクの性質等の変化を踏まえ、一部の間について入替・変更を実施。従来のテストと比較した場合においても、正答率の継続性や項目の妥当性の観点から問題がないことを確認済。

○ テスト及びアンケート調査の実施概要

平成27年6月1日から7月24日にかけて、全国75の公立・私立の高等学校等において、約13,600名の1年生相当を対象にIDを割り付けた上で無記名形式でテストを実施(2校は自記式のアンケート用紙を使用)。併せて、利用している機器やトラブル経験の有無等についてアンケートを行い、クロス集計を実施。

地域数	所在地区分	校種	人数	平均点
38都道府県	政令市等(特別区含む) 13校	国立 2校	男 6,754人 女 6,893人	全体 34.2点(49点満点) (正答率約70%)
	中核市 14校	公立 67校		
	その他 48校	私立 6校		
	計 75校		計 13,647人	

1-2. 青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標 - ILAS (Internet Literacy Assessment indicator for Students) -

○ 平成26年度下期に実施したILAS改修プロジェクトの取組(平成26年11月～27年3月)

【背景と目的】

ILASは、国内外の事情の変化を踏まえ、青少年のリテラシー向上施策をPDCAサイクルにて取り組むための基礎的指標として開発された。今般、開発時から3年が経過し、通信技術の発展やSNSの普及等によって青少年のインターネット利用を取り巻く環境やリスクが国内外で大きく変化していることを受け、そうした課題の現状を把握し適切に対処するため、改修作業を行った。

【改修の行程】

ILAS改修プロジェクトにおいては、下記工程で定義リストおよびテスト問題の改修を行った。

1. 定義リスト(インターネット上の危険・脅威への対応に必要な能力のリスト)の改修

①改修ポイントの洗い出し

改修前ILASの小分類について、定義リストの修正・変更等を行った。

【改修ポイント】

1. 定義リストにおける原理原則の整理
2. 定義リストにおける新テーマの追加
3. 定義リストにおける各項目の整理



②小分類の改修

③定義リストの改修

改修前の定義リスト186から307に増加。

中分類	改修前の小分類	改修後の小分類
1a: 違法情報	1 著作権等、肖像権、犯行予告、出会い系サイト、等	1 著作権等 2 肖像権等 3 犯行予告等 4 出会い系サイト等 5 児童ポルノ等 6 麻薬等 7 ストーカー・リベンジポルノ等 8 公職選挙法違反等
1b: 有害情報	1 公序良俗に反するような情報、成人向け情報等	1 公序良俗に反するような情報等(爆弾・拳銃) 2 成人向け情報等(動画系配信・動画系SNS)
2a: 不適切接触	1 誹謗中傷 2 匿名 SNS 3 実名 SNS 4 迷惑メール 5 アプリケーション(スマートフォン)	1 悪質な書き込み、掲示板、炎上等 2 匿名 SNS 等(コミュニティサイトの出会い問題) 3 実名 SNS 等(SNS いじめ、チャット・既読無視問題) 4 迷惑メール等(迷惑メール対策、チェーンメール) 5 アプリケーション等(スマートフォン)
2b: 不適正取引	1 詐欺等、不適正製品等の販売等	1 詐欺等(無料サイト、オークション、プリペイドカード、フィッシング) 2 不適正製品の販売等(ネット上の売買、ステルスマーケティング)
2c: 不適切利用	1 過大消費 2 依存	1 過大消費等(課金、過大消費) 2 健康・安全等(依存・歩きスマホ) 3 マナー等
3a: プライバシーリスク	1 プライバシー・個人情報の流出、不適切公開	1 プライバシー・個人情報の流出等(ジオタグ、ジオタグ以外の流出、プライバシーポリシー、不正アプリ)
3b: セキュリティリスク	1 不正アクセス等のなりすまし 2 ウイルス	1 不正アクセスのなりすまし等(ID・パスワード、脆弱性、ファイアウォール、クラウドストレージ、Wi-Fi) 2 ウイルス等

2. テスト問題の改修

①改修ポイントの洗い出し

現在に則していない問題、用語、またテーマの重複等を確認・選定し、文章・用語レベルの修正を行った。また、変更が望ましい問題として9問を選定した。

②プレテストの実施

改修後の49問を選定するにあたり、3校(314名)の協力を得てプレテストを実施。プレテストにおいては、改修前49問と改修候補29問のテストを実施した。

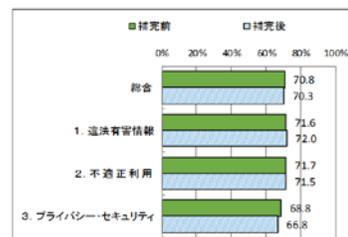
③プレテストの分析

プレテストの結果から、総得点毎の選択肢の選択率、弁別指数、正答率、テーマ設定を行い、最終的に改修の9問を選定し、改修した。

④テスト問題の入れ替えと評価

テスト問題の入れ替えと評価
改修後49問について、正答率のヒストグラムと信頼係数、因子分析を行い、入れ替えた問題の妥当性を検証した。

リスク分類(大分類)毎の正答率の比較



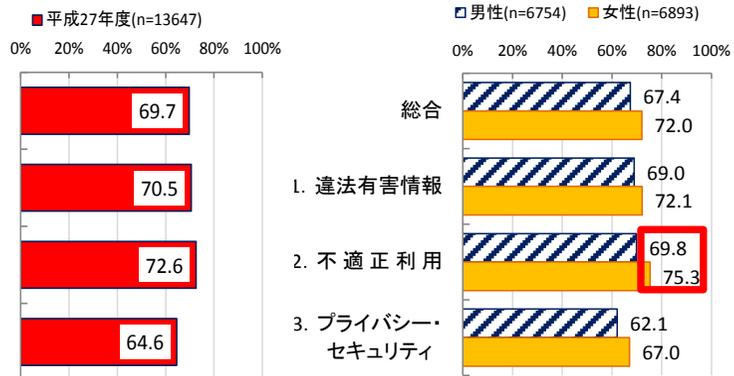
大分類	中分類	小分類	原則(+), 知識(●)、事業者関係(△)	行動(O)
違法・有害情報リスク	違法情報	【中分類共通の原則】		
		【原理原則】		
		【発信者側】	【発信者側】	
		【受信者側】	【受信者側】	
		【事業者の取組】	【事業者の取組の活用】	

3-1. 平成27年度ILASの結果

平成27年度 テスト結果の全般的評価

- 全体の正答率は69.7%。大分類においては、**2. 不適正利用**(インターネット上で適切にコミュニケーションができる能力)の正答率が高い(72.6%)が、**3. プライバシー・セキュリティ**(プライバシー保護や適切なセキュリティ対策ができる能力)に関する正答率が低い(64.6%)。
- **不適切利用リスク(2c)の正答率が高く**、利用料金や時間の浪費に配慮した利用はできるものの、**プライバシーリスク(3a)や、セキュリティリスク(3b)及び不適正取引リスク(2b)の正答率が低い**。
→ **プライバシー保護やセキュリティ対策、電子商取引への対処等が弱点**。
- 男子より、**女子の正答率が高く**、特に、**2. 不適正利用**で最も差が大きい。
- 学校の所在地別で比較すると、**中核市に所在する学校において正答率が高い**。

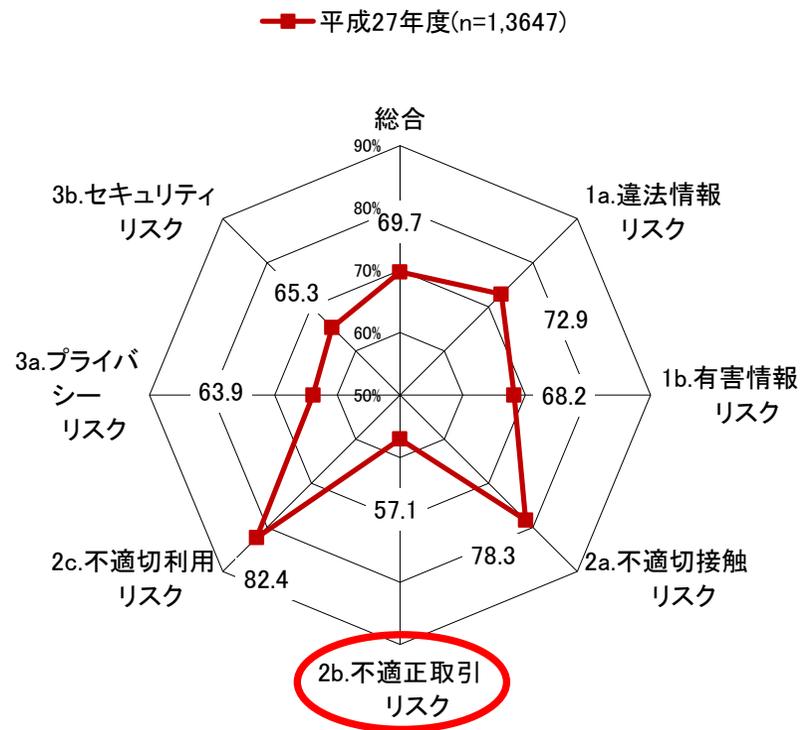
【大分類】



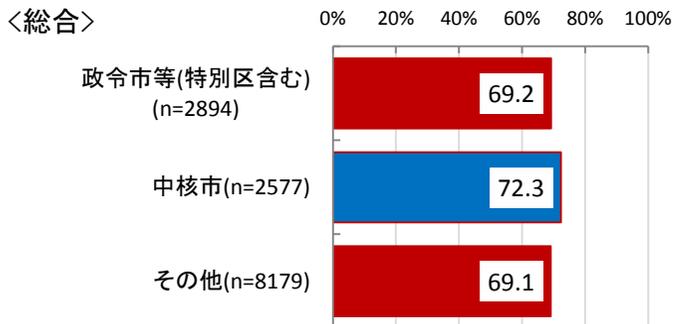
【中分類】

平成27年度	
回答者人数	13,647人
総合	69.7%
1a.違法情報リスク	72.9%
1b.有害情報リスク	68.2%
2a.不適切接触リスク	78.3%
2b.不適正取引リスク	57.1%
2c.不適切利用リスク	82.4%
3a.プライバシーリスク	63.9%
3b.セキュリティリスク	65.3%

全体平均点
34.2点/49点
(約70%/100%)



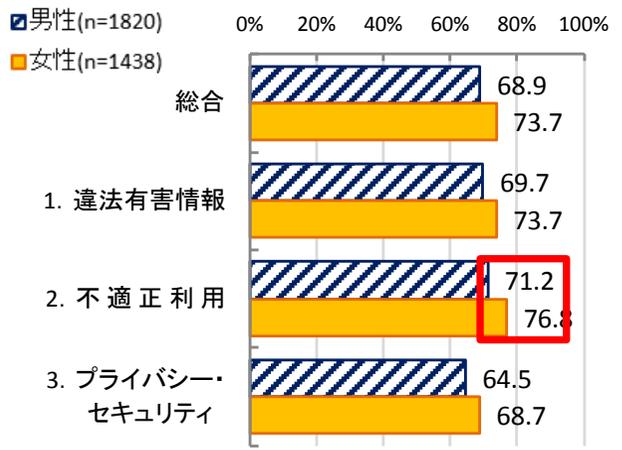
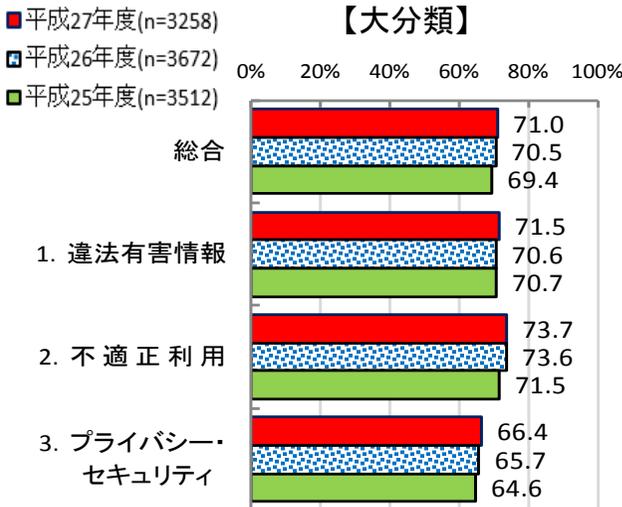
【所在地別正答率】



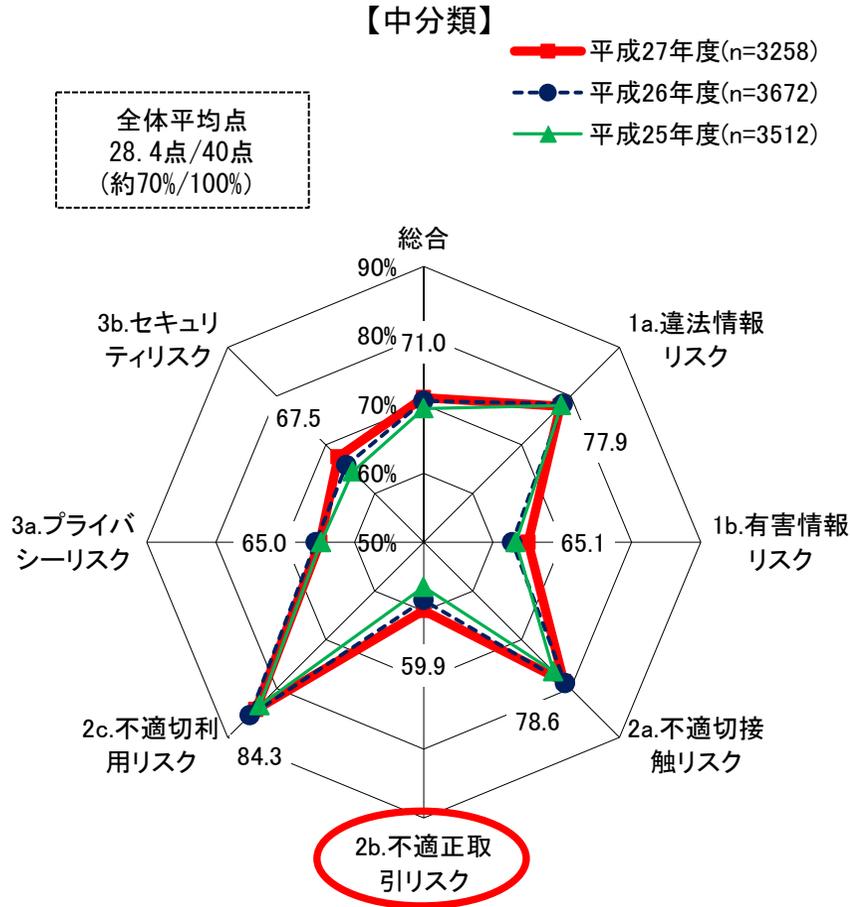
3-2. 平成27年度ILASの結果(参考)

過去のテスト結果との比較

○総合の平均点で平成26年度を上回ったが、不適正取引リスク(2b)の正答率が圧倒的に低く、有害情報リスク(1b)や、セキュリティリスク(3b)に関する能力が前年度と比較し約2ポイント向上した一方、不適正利用リスク(2c)は微減している。
 → 全体的なりテラシーの向上は見られるが、**青少年の生活サイクルにも関わる不適正利用に対する理解の維持向上や、社会生活に必要となる電子商取引に関するリスクへの理解が課題。**



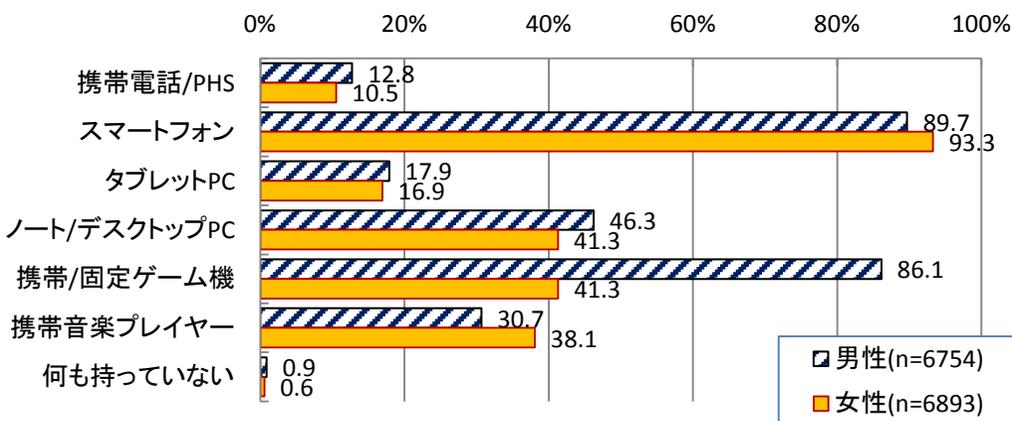
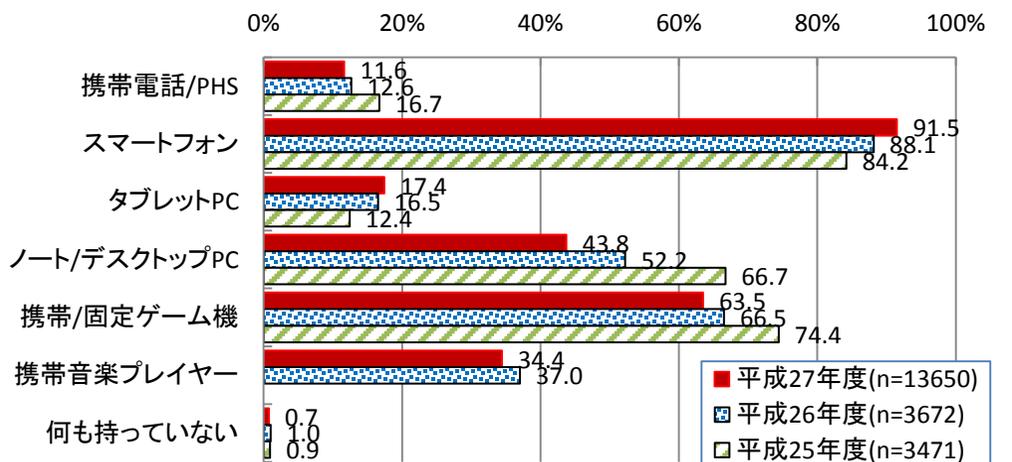
	平成27年度	平成26年度	平成25年度
回答者人数	3258人	3672人	3512人
総合	71.0%	70.5%	69.4%
1a.違法情報リスク	77.9%	78.4%	78.1%
1b.有害情報リスク	65.1%	62.8%	63.3%
2a.不適切接触リスク	78.6%	78.9%	76.5%
2b.不適正取引リスク	59.9%	58.4%	56.5%
2c.不適切利用リスク	84.3%	85.5%	83.5%
3a.プライバシーリスク	65.0%	65.6%	64.8%
3b.セキュリティリスク	67.5%	65.8%	64.5%



※時系列比較のため、改修した質問を除く40問で各年度の指標を算出。また、平成27年度は平成26年度参加校を対象に算出。

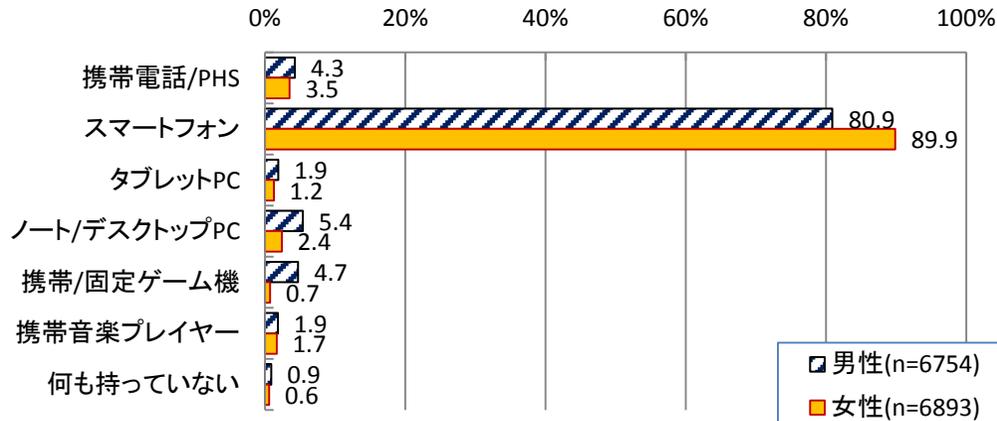
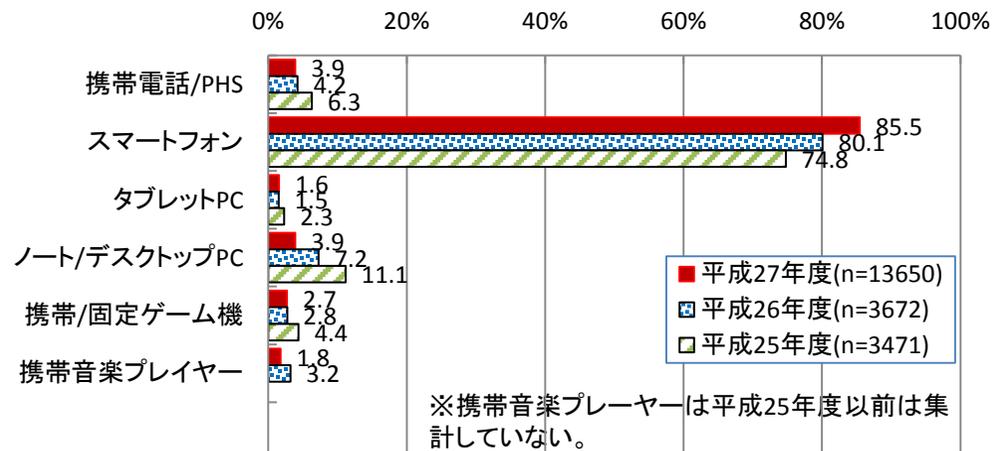
4. 青少年の利用機器の現状

【保有するインターネット接続機器(複数回答)】



- ・ 青少年の**91.5%**がスマートフォンを保有。
- ・ ノート/デスクトップPCの保有率が低下している中、タブレットPCの保有率は増加している。
- ・ 女子に比べ男子のゲーム機保有率が**大幅に高い**(男子86.1%、女子41.3%)。

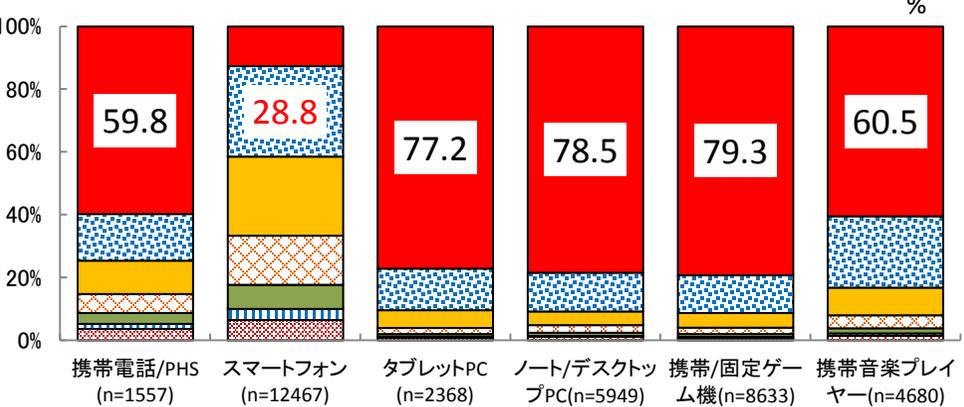
【インターネットに接続する際、最もよく利用する機器(択一回答)】



- ・ インターネットに接続する際、スマートフォンを最もよく利用する青少年は**85.5%**。
- ・ 男女ともスマートフォンを最もよく利用しているが、男子に比べ**女子の方がよりスマートフォンの利用率が高い**。逆に**他の機器は男子の方が利用率がやや高い**。

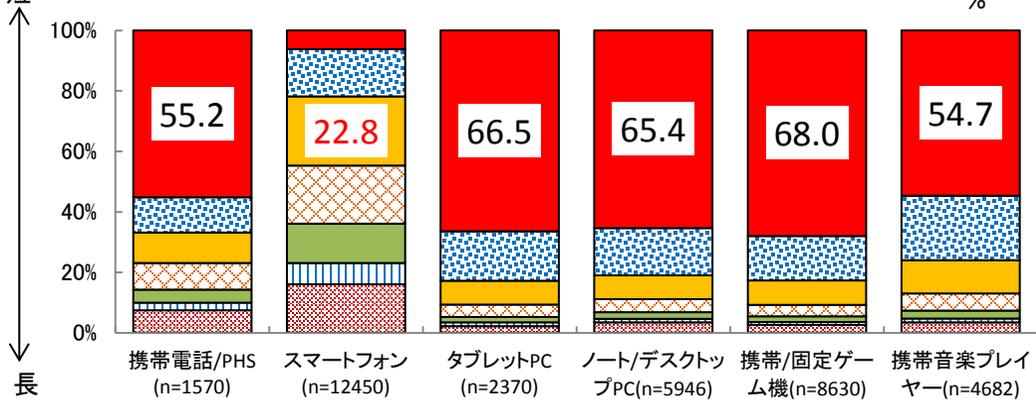
5. 青少年のインターネット利用状況

【機器別1日の平均利用時間(平日)】



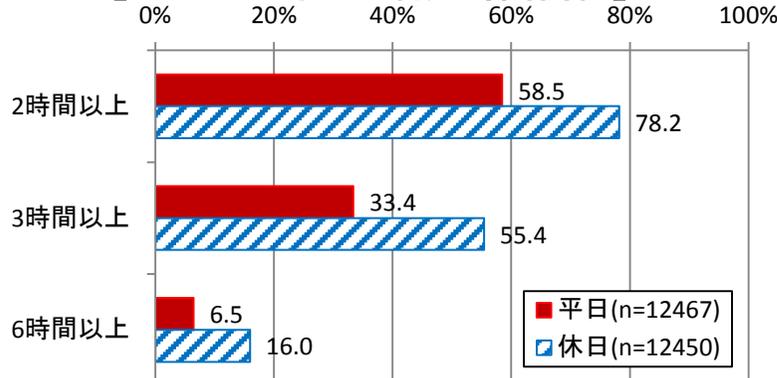
	6時間以上	5~6時間未満	4~5時間未満	3~4時間未満	2~3時間未満	1~2時間未満	1時間未満
携帯電話/PHS (n=1557)	3.7	1.6	3.5	6.0	10.6	14.8	59.8
スマートフォン (n=12467)	6.5	3.5	7.7	15.7	25.1	28.8	12.7
タブレットPC (n=2368)	0.8	0.4	0.8	1.9	5.6	13.2	77.2
ノート/デスクトップPC (n=5949)	1.1	0.4	1.0	2.4	4.3	12.4	78.5
携帯/固定ゲーム機 (n=8633)	0.8	0.4	0.8	2.1	4.6	12.1	79.3
携帯音楽プレイヤー (n=4680)	1.4	0.9	1.6	4.2	8.8	22.7	60.5

【機器別1日の平均利用時間(休日)】



	6時間以上	5~6時間未満	4~5時間未満	3~4時間未満	2~3時間未満	1~2時間未満	1時間未満
携帯電話/PHS (n=1570)	7.4	2.6	4.2	8.9	10.1	11.7	55.2
スマートフォン (n=12450)	16.0	7.1	13.0	19.3	22.8	15.6	6.2
タブレットPC (n=2370)	2.2	1.2	1.9	4.1	7.9	16.3	66.5
ノート/デスクトップPC (n=5946)	3.4	1.1	2.2	4.3	7.9	15.7	65.4
携帯/固定ゲーム機 (n=8630)	2.7	0.9	1.9	3.8	8.2	14.7	68.0
携帯音楽プレイヤー (n=4682)	3.4	1.2	2.6	5.7	11.0	21.2	54.7

【スマートフォンの利用時間割合】

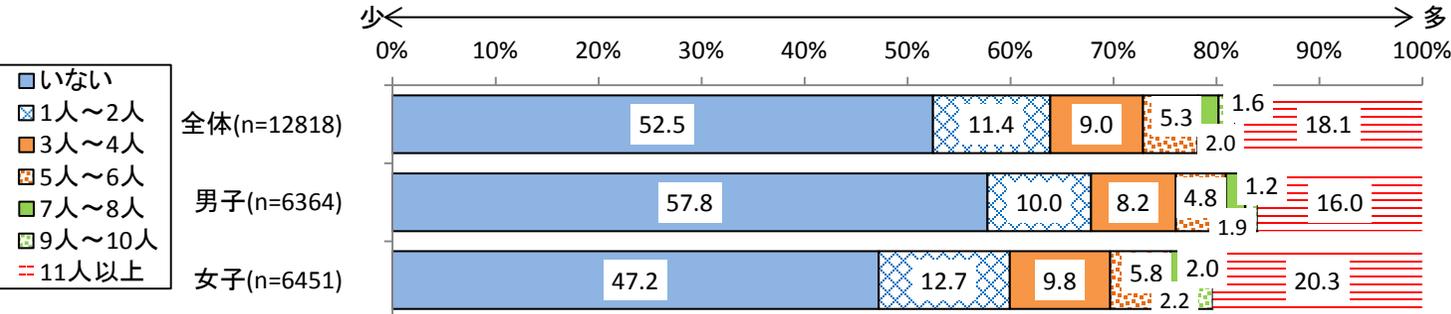


- 1日当たりの平均利用時間はスマートフォン以外は1時間未満が最も多いが、スマートフォンは平日で1~2時間、休日で2~3時間の利用が最も多く、他の機器に比べ利用時間が長い。
- 平日と比較すると休日の方が長時間利用している。特にスマートフォンは休日では2時間以上が78.2%、3時間以上が55.4%、6時間以上では平日の約2.5倍の16.0%となっている。

※対象者数は、各機器の保有者

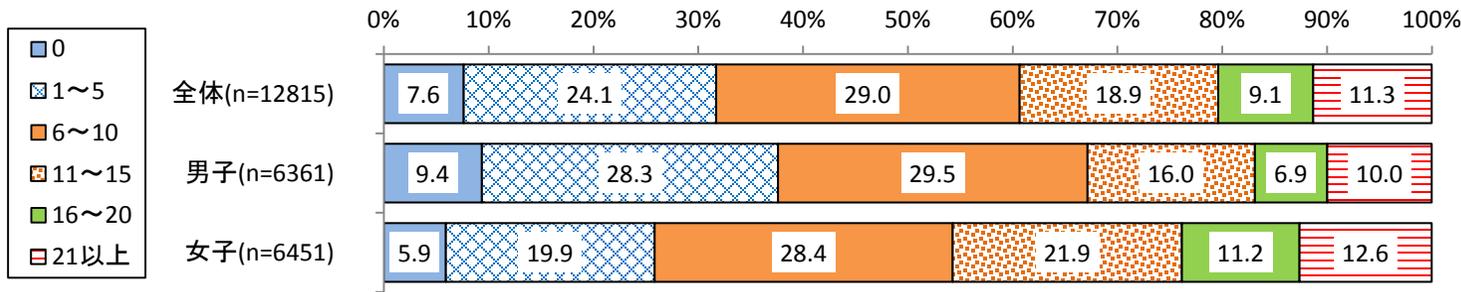
6-1. 青少年のSNS利用状況等1

【一度も会ったことのないSNS上だけの友人数】

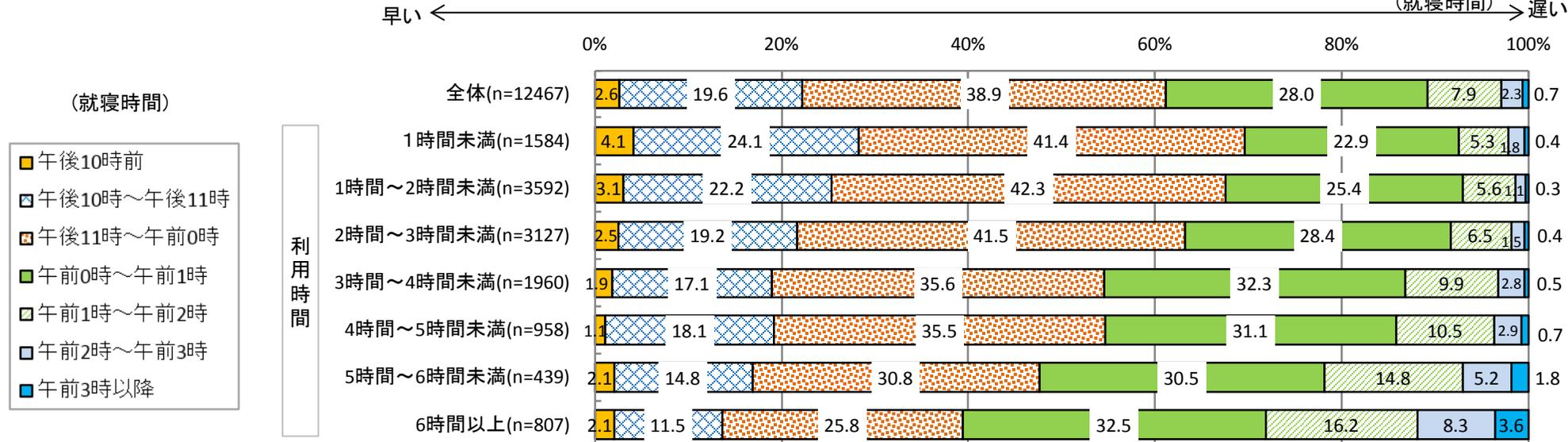


- 約半数の青少年は一度も会ったことのないSNS上だけの友人がおり、11人以上いると答えた青少年は18.1%。また、SNS上だけの友人の平均数は男子よりも女子の方が多い。
- 所属チャットグループ数は6～10が最も多い。平均所属グループ数も女子の方が男子より多い。
- スマートフォンでのインターネット利用時間と就寝時間の関係を見ると、長時間利用になるにつれ就寝時間が遅くなる傾向がある。

【現在所属しているチャットグループ数】



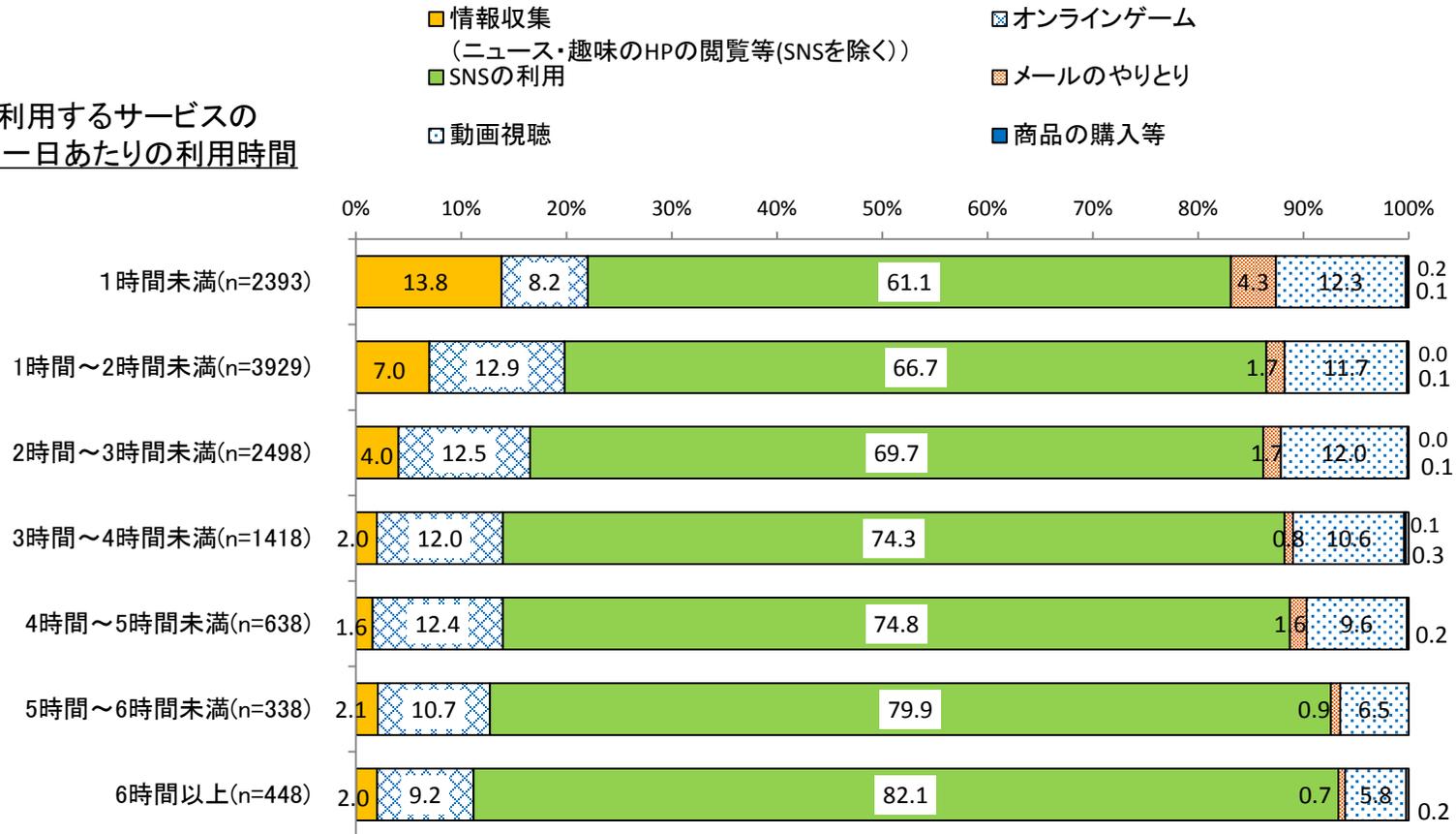
【スマートフォンによるインターネットの利用時間(平日)と平均就寝時間】



6-2. 青少年のSNS利用状況等2

【スマートフォンの長時間利用とSNSの利用時間】

最も利用するサービスの
平日一日あたりの利用時間

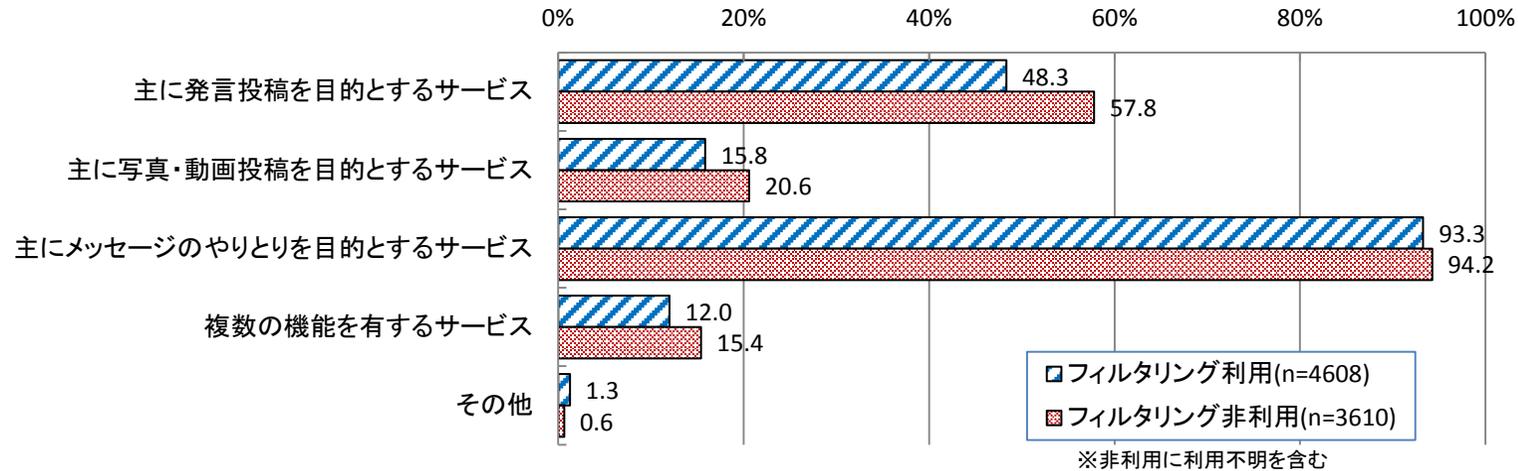


- インターネット接続機器のうちスマートフォンを最も利用すると答えた青少年について、最も利用するサービスの平日一日あたりの利用時間を見ても、利用時間が長くなるにつれ、SNSが利用目的であると答えた青少年の割合は増えていく。

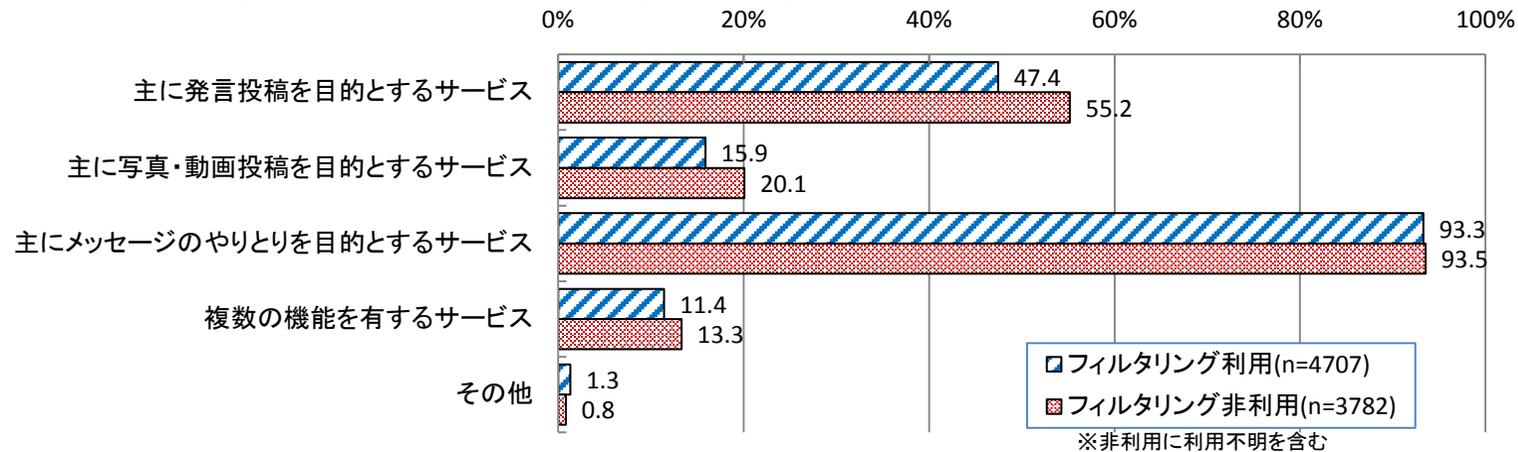
6-3. 青少年のSNS利用状況等3

【利用しているSNS:フィルタリング利用有無別】

- フィルタリングは「有害なサイトやアプリの閲覧を制限し、安心してインターネットを使うことを可能にしてくれるもの」と認識



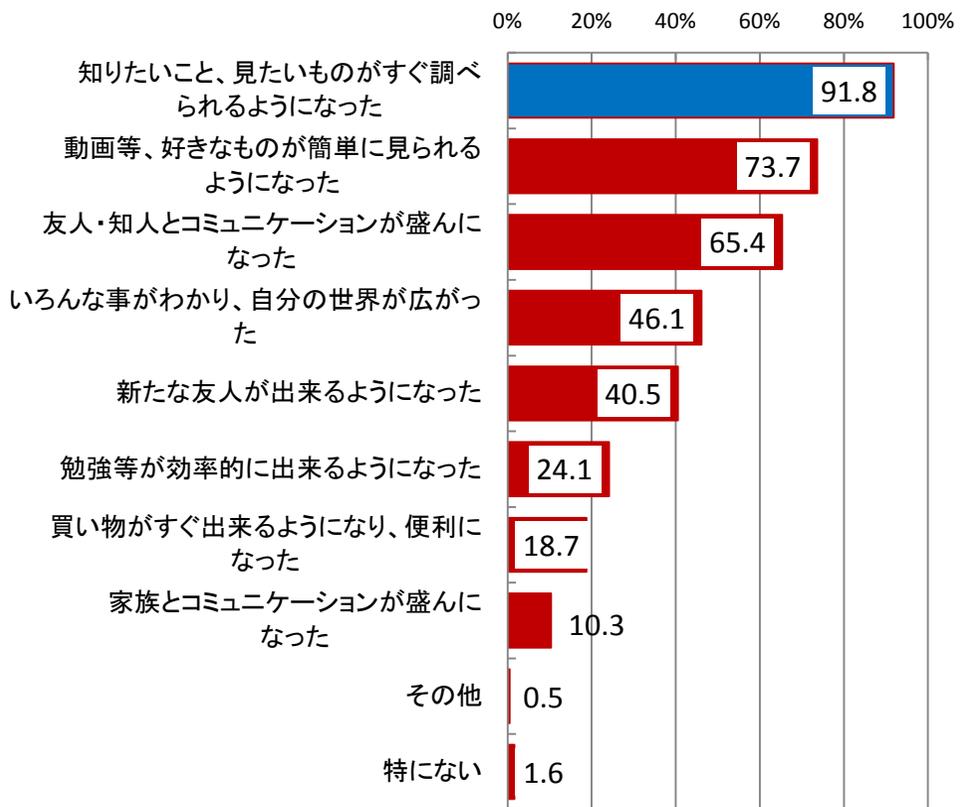
- フィルタリングは「必要だと思う・どちらかという必要だと思う」と認識



- フィルタリングを「有害なサイトやアプリの閲覧を制限し、安心してインターネットを使うことを可能にしてくれるもの」、あるいは「必要だと思う・どちらかという必要だと思う」と認識しつつ、フィルタリングを利用していない青少年については、利用している青少年よりも発言・写真・動画投稿等を目的とするサービスを利用する者の割合が大きい。

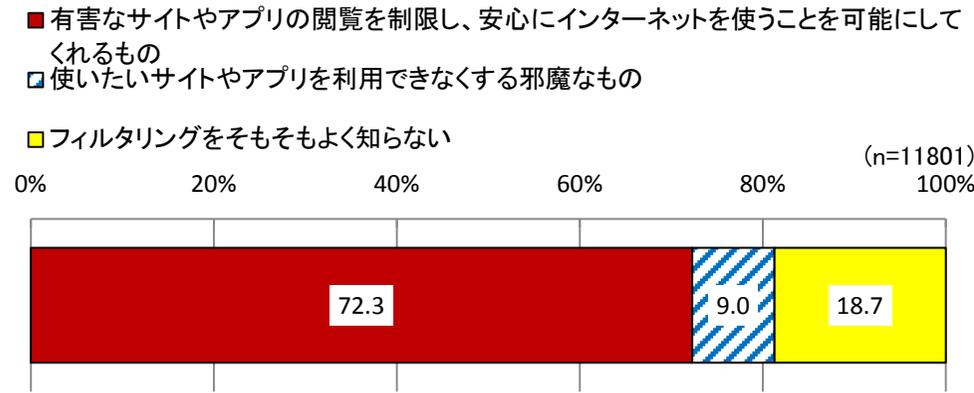
7. インターネット利用のメリット等

【インターネットを使い出して良かったこと(複数回答)】

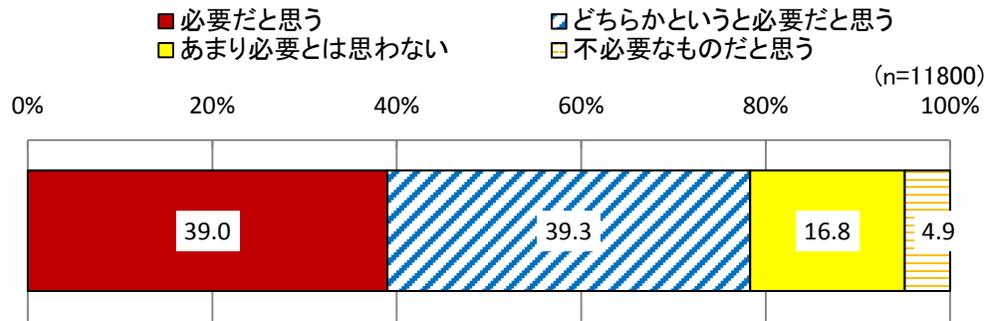


- 約98%の青少年がインターネットのプラス面を感じている。特に知りたいこと、見たいものがすぐに調べられるようになったことは90%以上が良かった点ととらえている。
- 単にフィルタリングを邪魔なものと思っている青少年は少数で、約72%はプラスイメージを持っている。
- 約78%の青少年が自分にとってフィルタリングは必要（必要だと思う＋どちらかという必要だと思う）と考えている。
- フィルタリング利用率は約49%。自身の利用がわからない青少年は約24%。

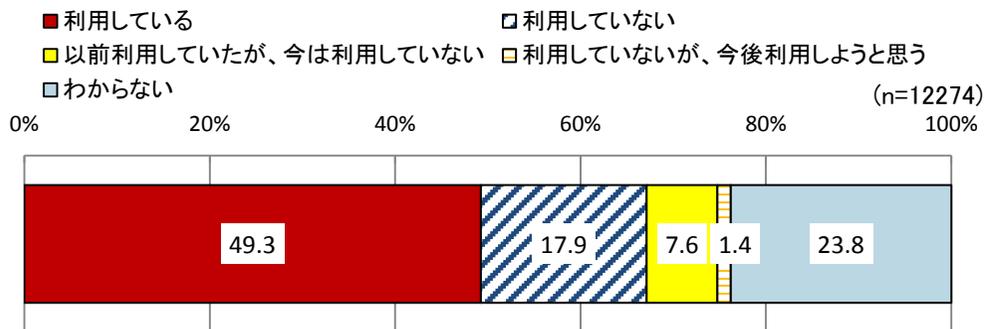
【フィルタリングに対するイメージ(スマートフォン利用者)】



【フィルタリングに対する必要性の意識(スマートフォン利用者)】

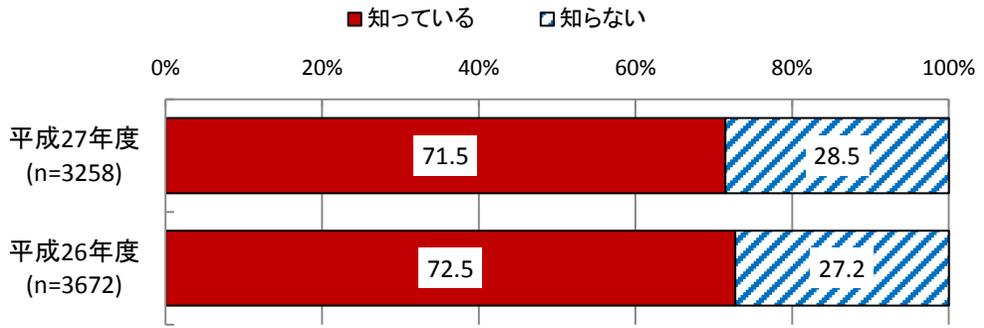


【フィルタリング利用率(スマートフォン利用者)】



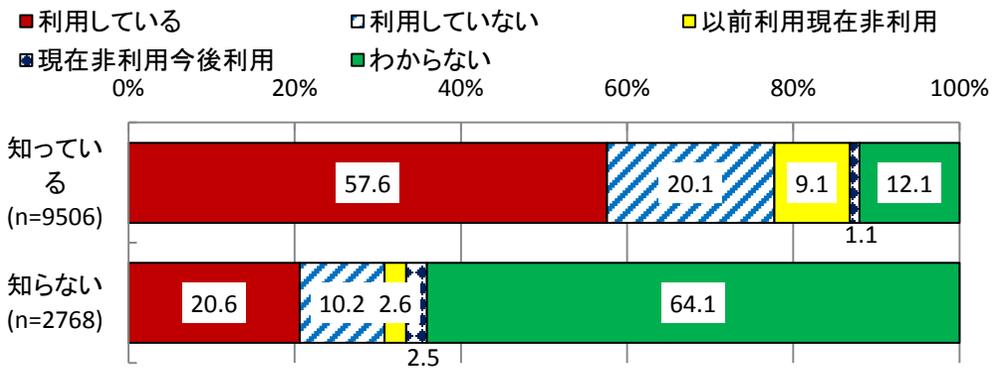
8. フィルタリングの認知・家庭のルールとフィルタリングの利用状況

【フィルタリングまたは機能制御機能の認知】



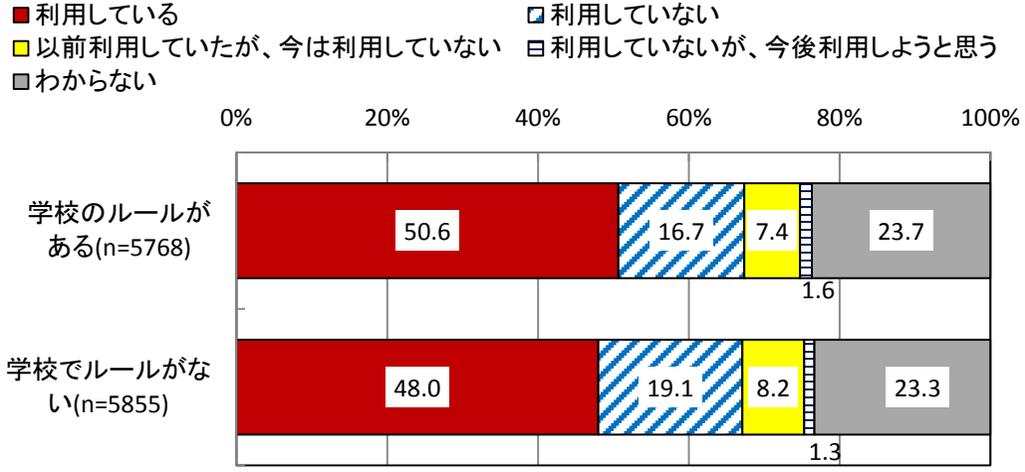
※知っている:「よく知っている」と「多少知っている」の合計。知らない:「あまり知らない」「全く知らない」の合計
 ※平成27年度と26年度の「知っている」の数値には有意差は見られない(5%水準)

【フィルタリングまたは機能制御機能の認知と利用状況】

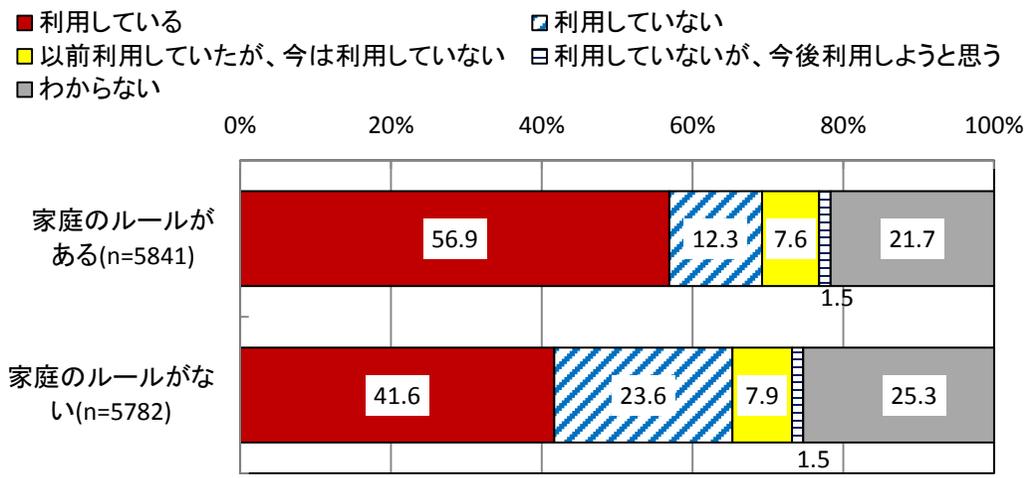


・ フィルタリング等は約70%の青少年に認知されている。
 ・ フィルタリング等の機能を認知している青少年はフィルタリング等の利用率が58%だが、認知していない多くの青少年はそもそも利用しているかどうかを認識していない。

【学校のルールとフィルタリング等の利用状況】



【家庭のルールとフィルタリング等の利用状況】

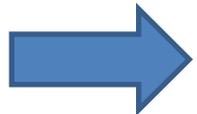
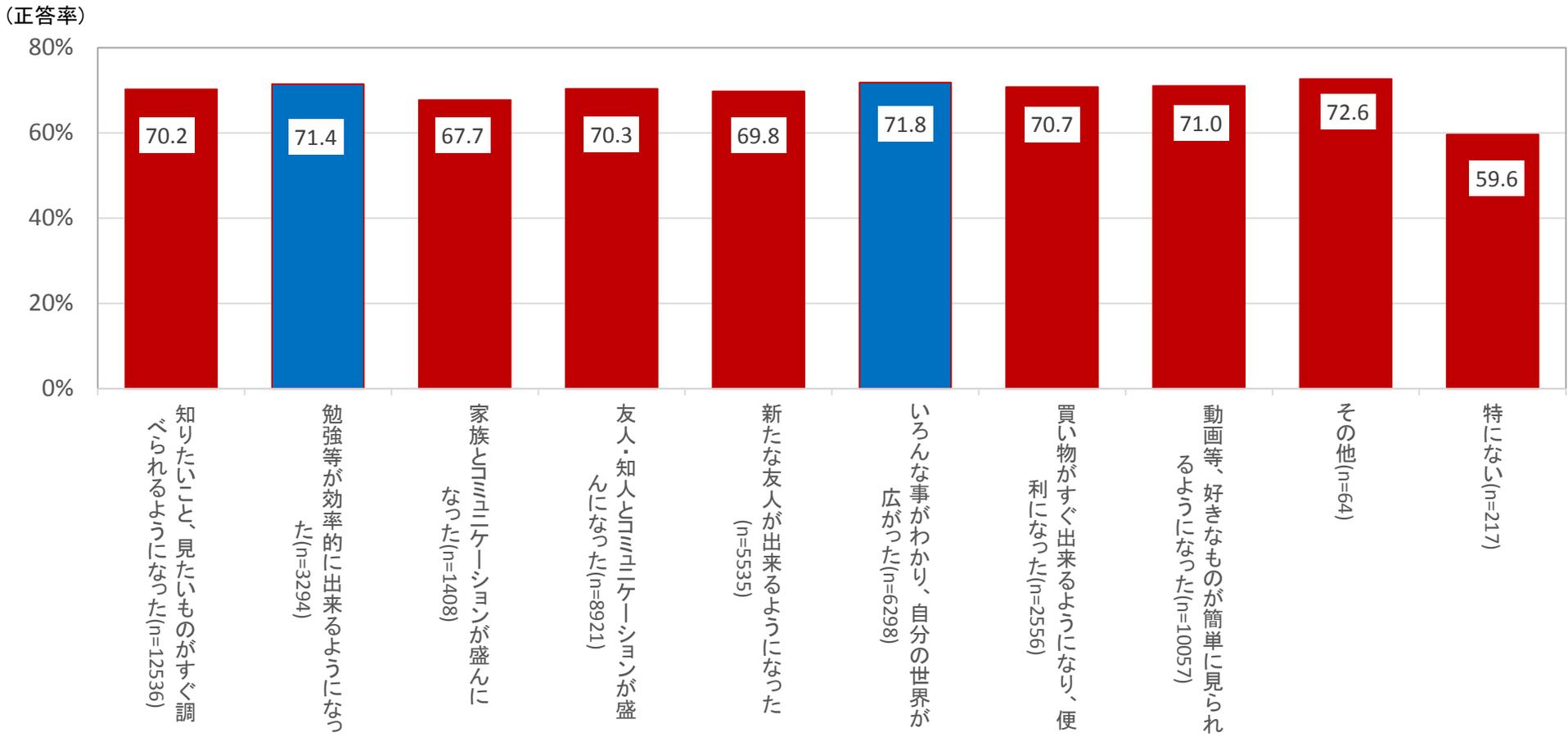


・ 約半数の青少年はスマートフォンやSNSを利用する際の家庭でのルールがない。
 ・ 家庭のルールがある青少年のフィルタリング利用率が56.9%であるのに対し、ルールのない青少年の利用率は41.6%と低い。

9-1. ILAS指標とアンケート結果との現状分析1

1. 勉強等をする際、インターネットに利点を感じている青少年のリテラシーが高い。

- 勉強が効率的に出来る、自分の世界が広がったと感じている青少年の正答率が相対的に高く、サンプル数は少ないが、特に利点を感じていない青少年の正答率は相対的に低い。

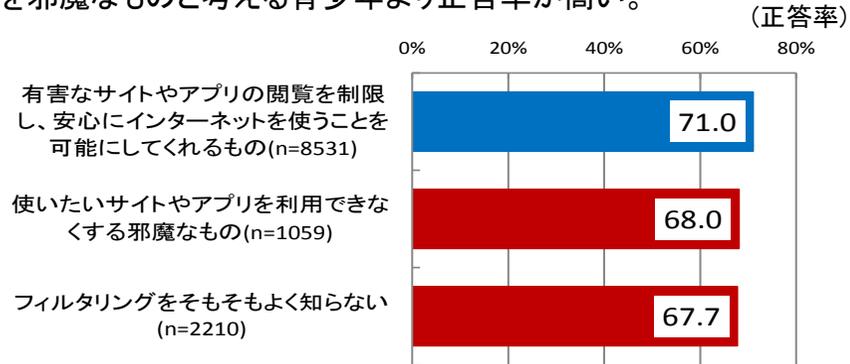


インターネットを利用する際のマナー等を啓発しつつも、より前向きに上手に利用することを促すことも重要。

9-2. ILAS指標とアンケート結果との現状分析2

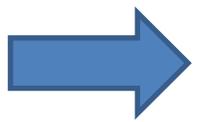
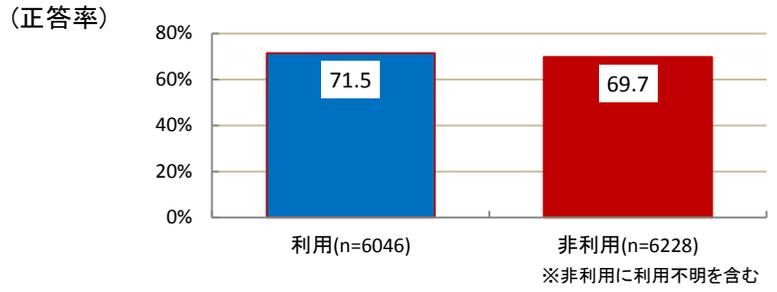
2. フィルタリングの意義について理解している青少年のリテラシーが高い。

- フィルタリングの意義について理解がある青少年が、フィルタリングを邪魔なものとする青少年より正答率が高い。



3. フィルタリングを利用している青少年のリテラシーが高い。

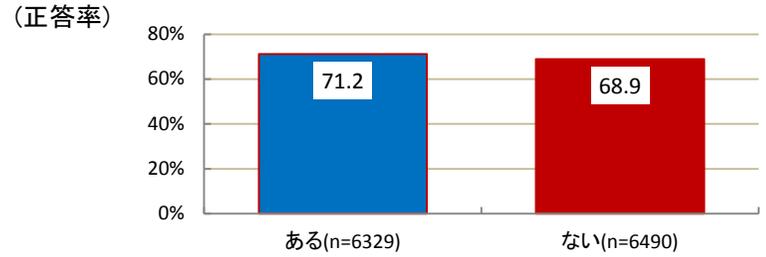
- フィルタリングを利用している青少年は、フィルタリングを利用していない青少年より正答率が高い。



フィルタリングの必要性、意義等を青少年自ら考える機会を設けることが重要。

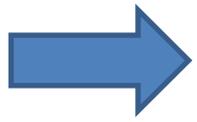
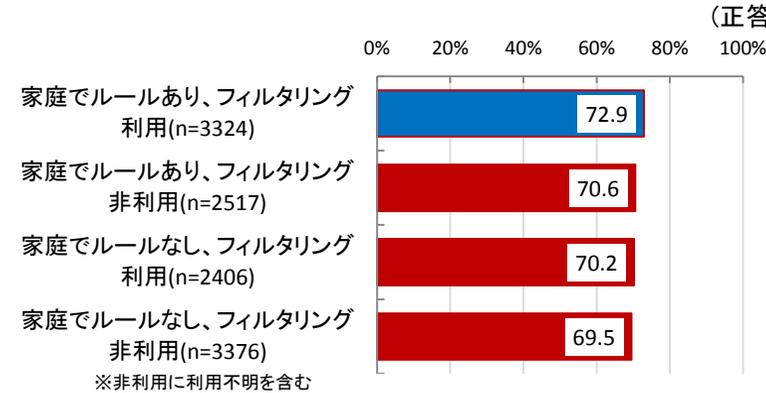
4. 家庭でルールのある青少年のリテラシーが高い。

- スマートフォンやSNS利用に関する家庭のルールがある青少年は、家庭でのルールがない青少年より正答率が相対的に高い。フィルタリング利用率も、ルールのない青少年の方が相対的に低い。



5. 家庭でルールがあり、フィルタリング利用の青少年のリテラシーが高い。

- 「家庭でルールがあり、かつ、フィルタリング利用あり」青少年のリテラシーが最も高く、「家庭でルールがなく、かつ、フィルタリング利用なし」青少年のリテラシーが最も低い。ただし、「家庭でルールがあり、かつ、フィルタリング利用なし」と「家庭でルールがなく、かつ、フィルタリング利用あり」の青少年では同程度。

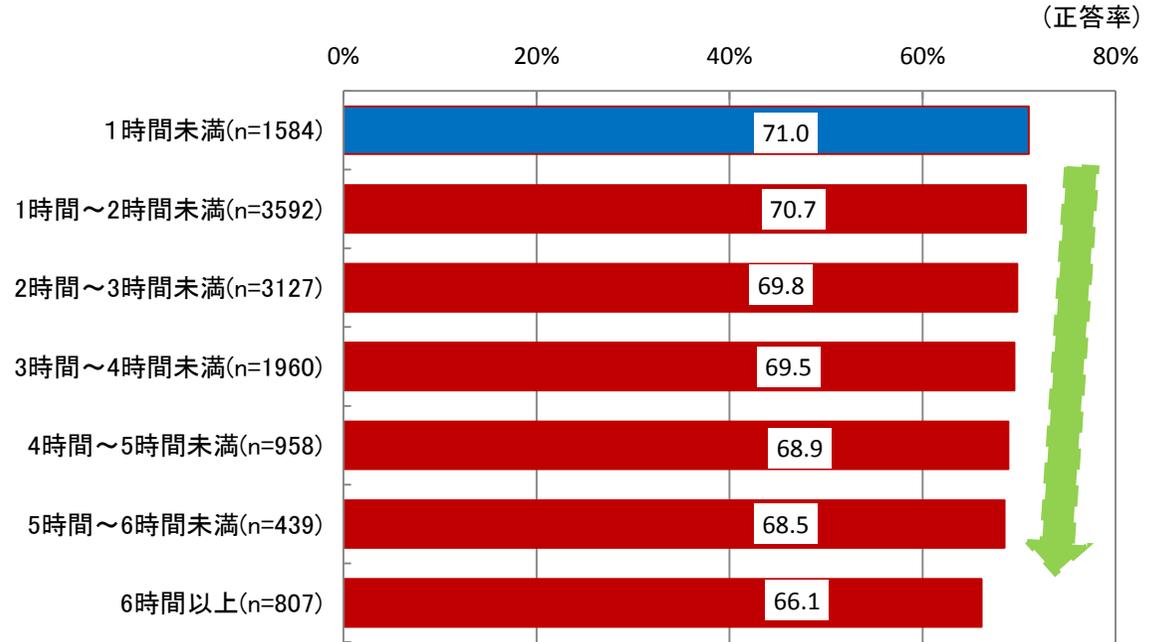


正しいリスク認識、家庭でのルールづくり、フィルタリングの意義等、保護者の意識を高めることが重要。

9-3. ILAS指標とアンケート結果との現状分析3

6. スマートフォンを長時間利用する青少年のリテラシーは低くなる傾向がある。

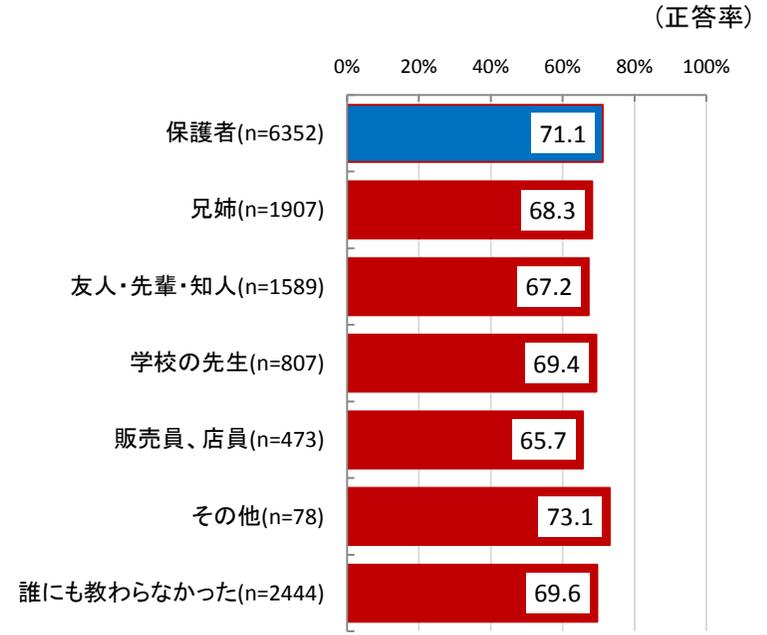
- インターネットの利用時間(平日のスマートフォン利用)については、1時間未満利用する青少年は相対的に正答率が高い。長時間利用するにつれ、概ね正答率が低くなっていく傾向がある。



➡ 長時間のインターネットの利用を控え、適度な時間でのインターネットの利用が重要。

7. インターネットを使い始めた時に、インターネットの使い方を「保護者」に教わった青少年はリテラシーが高い。

【インターネットの使い方を教わった相手別正答率】



※「その他」はインターネット、親戚、説明書等。

➡ 家庭等においてインターネットの使い方を教える環境づくりが重要。